

再生エネ3倍 重い宿題

下

岩手県八幡平市。人気のスキーリゾートから車でさらに30分ほど山道を進むと、標高1150mの山中に巨大な蒸気の柱が見えた。2024年春に稼働予定の安比地熱発電所だ。豪雪地帯で、除雪車なくしてたどり着けない条件不利地にある。運営する安比地熱（同）市長の菅野雄幸社長は「冬場に作業できず、普通なら3年の工事が5年かかる」と話す。

再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）は事業者が国

地熱、潜在力は世界3位

難事業、地域おこしと両輪で

の認定を受けてから4年で運転開始することを想定している。5年かかった安比地熱は工事の進捗を評価され、失効こそ免れたが、本来15年の買い取り期間は9ヶ月ほど短縮を余儀なくされる。

火山列島の日本には豊富な地熱資源が眠る。埋蔵量は世界3位。原発23



標高1150mの豪雪地帯の山中にある
安比地熱発電所（岩手県八幡平市）

農家と連携、資源有効活用

秋田県大潟村で稲作で出る「もみ殻」を燃料に使

蓄電池を調整弁として
用いる動きが少しづつ広

がっている。

ただ、国内

の各電力管内に送配電事

業者は1社しかなく、そ

の1社はすべて大手電力

会社の子会社だ。大手以

外が蓄電池を電力系統に

つなげようとしても断ら

れる事例が少なくない。

再生エネでつくった電

力を蓄電池に大規模にた

められれば、その分、大

手の火力発電の存在意義

は薄れる。大手とその他

の事業者が反目し合う構

図に陥りがちだが、それ

では脱炭素は進まない。

九州では九州電力と地

元の新電力が組んで22年

に蓄電池事業を始めた。

出力制御を減らし、地域

環境に左右されやすく、

経済の安定につなげる共

通目的で手を取り合つ視

点は欠かせない。

再生エネは天候や周辺

環境に左右されやすく、

経済の安定につなげる共

通目的で手を取り合つ視

点は欠かせない。

再生エネの発電を

一時的に止める電力制御

が各地で相次ぐ。

千葉大史、田中雅久、牛込俊介、小嶋誠治が担当しました。

基分の潜在力は1基分も生かせていない。掘り当たるものが容易でない上、規制する動きもある。木訓班長は「地熱を生かすには『ためる』ことよりも重要になる。太陽光、風力、地熱どちらの地域の新たなブランドになる」と強調する。

木訓班長は「地熱を生かした野菜のハウス栽培など地元と連携し、共生する」と語る。共栄を続けたい」と語る。再生エネは天候や周辺環境に左右されやすく、経済の安定につなげる共通目的で手を取り合つ視点は欠かせない。

分散型の再生エネ活用は地域との関わりなしに定着は難しい。

火災や再生エネの発電を一時的に止める電力制御

が各地で相次ぐ。

千葉大史、田中雅久、牛込俊介、小嶋誠治が担当しました。

全国有数の米どころ、

それでも10年以上にわたり協議の末に、難事業を前進させた事例はほかにもある。

再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）は事業者が国